





あなたへ

普段から写真は撮っていますか？  
また、撮った写真はどのように保存していますか？







シャッターボタンに指をのせる。  
ファインダーを覗いて、写したい何かを狙う。  
シャッターを切る。





写真を撮るという行為は  
今までに気にもしなかった  
色々なことに目や感情を向けるきっかけになります。







光の向きや明るさ、  
暗闇の深さを意識するようになります。







今日は晴れるとか、曇るとか、  
その日の天気を意識するようになります。







なびく髪、木々、草花をみて、  
風を感じます。







その誰かの、  
コロコロと変わる表情、一瞬一瞬を  
大切に感じるようになります。







ただ日々を淡々と過ごすより  
“写真を撮る”  
という行為を含めるだけで、  
なんとなく、  
日々の出来事、ひとつひとつを  
愛おしく感じるができると思います。







ただ過ぎるはずの一瞬が  
“手に取れるカタチ”にするだけで、  
自分のお気に入りになります。  
誰かのお気に入りになるかもしれません。  
未来の自分に懐かしい気持ちを抱かせてくれるかもしれません。







すこし、後悔していることがあります。  
高校時代、音楽をやっていました。  
後にも先にもない、かけがえのない時でした。  
家族よりも長い時間、仲間と過ごしていました。  
でも、みんながどんな顔していたとか、  
どんなことあったとか、  
あまり記憶にないのです。







あの頃の辛さ、苦しさ、  
楽しさ、面白さ、感動を、  
もし今のように写真を撮っていたら、  
もっともっと大切に噛みしめられたのかもしれない。







簡単でいいと思います。  
撮ってください、写真を。  
データのままだとせず、  
一枚の手に取れるカタチにしてください。







手に取れるカタチとなった写真たちは、  
地震で埋もれようが、  
津波に流されようが、  
いろいろな人の手をかりて、  
持ち主の元へと帰ることができます。







写真となった“その時”は  
タイムカプセルに入れた自分への手紙のように、  
いつかのあなたに語りかけます。



「あの時はお腹がよじれるくらい、笑ったよね。」



「あの日はまだ肌寒かったけれど、春の空気、漂っていたね。」



「学校のおい、変わってなかったよね。」

感情が高まっていればぶれたりもします。  
“好き”を写すときは、  
つい近づきすぎてしまいます。  
あわててしまいます。緊張します。  
ぼけてしまうこともあるかもしれません。







でも、それもあなたの感情。  
誰かの感情。何かの感情。  
うつすあなたと、うつされた誰か、何か、との  
戻ることのできぬたった一瞬の  
“その時”  
なんだと思います。







ファインダーを通して、  
二度と訪れることのない  
今、この時、この一瞬、を  
もっと丁寧に、もっと愛おしく  
感じてください。







手に取れる、  
触れることのできる一枚の形にして、  
いつかのあなたのために、  
あるいは誰かのために、  
傍らにおいてください。











どうか、あなたの写真たちが  
かけがえのない一枚一枚になりますように。



かみはら えみより